

スタートは、ハンジにある。

# Mt. AKAGI Hill Climb 2011

第1回 まえばし赤城山 ヒルクライム大会

## ウェルカムトークショー

2011.9.10. sat. 13:30-15:00(予定) 入場無料

会場 グリーンドーム前橋メインイベントエリア [群馬県前橋市岩神町1-2-1]

まえばし赤城山ヒルクライム大会受付・検車会場内ステージ

### 第1部 「クライマー長沼に聞け! THE・ヒルクライム」

—記録を狙うコース攻略法& 完走するコツ& 安全に下山するための注意点—

### 第2部 「私たち、自転車を楽しんでます!」

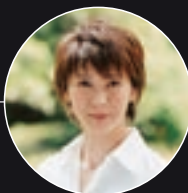
司会

サイクルライフナビゲーター  
絹代



ゲスト

スポーツcommentator  
元バレーボール全日本代表  
益子直美



自転車ツーキニスト  
TBSプロデューサー  
疋田 智



プロロードレーサー  
VAXレーシング所属  
長沼隆行



主催：ググっとぐんま観光宣伝推進協議会県央地域部会・群馬県中部県民局  
まえばし赤城山ヒルクライム大会実行委員会事務局（前橋市商工観光部観光課）

お問い合わせ：群馬県中部行政事務所 TEL.027-219-2555

# Profile

## 司会 絹代

Kinuyo

横浜市出身。東京大学農学部卒業後、JICA(国際協力機構)勤務を経て、英国大学院で身体運動と栄養について学ぶ。自転車ロードレースの実業団、日本代表の広報スタッフも経験。現在は雑誌、テレビ、ラジオなどのメディア、各種イベントで、MCや、自転車フィットネスの提案など、自転車を軸に健康、美容、エコのフィールドで活躍中。また、自転車を使った町おこしや、子ども自転車教室のスタッフも務めるなど、自転車の活用や普及のためにも積極的に活動している。自転車の安全基準「SBAA」のTVCMにも出演中。サイクルライフナビゲーター、健康管理士、NPO法人自転車活用推進研究会理事、飯田市エコライフコーディネーター。著書に「自転車でカラダとココロのシェイプアップ」「自転車と旅しよう!」など(ともにエイ出版社)個人サイト <http://www.kinuyoworld.net/>

## ゲスト 疋田 智

Satoshi HIKITA

1966年宮崎県生まれ。東京大学文学部卒。自宅から会社までの通勤に自転車を使う“自転車ツーキニスト”の草分けとして、自転車の乗り方、楽しみ方、ひいては自転車行政の形、理想的な都市交通のあり方などを論ずる。NPO法人自転車活用推進研究会理事、学習院大学生涯学習センター非常勤講師。自転車関連の著書に「ものぐさ自転車の悦楽」(マガジンハウス)「自転車の安全鉄則」(朝日新書)「自転車ツーキニスト」(光文社知恵の森文庫)「自転車生活の楽しみ」(朝日文庫)「疋田智のロードバイクで歴史旅」(柘出版社)「自転車とろろん銭湯記」(ハヤカワ文庫)など。TBS情報制作局プロデューサー。  
[http://www.melma.com/backnumber\\_16703/](http://www.melma.com/backnumber_16703/)

## ゲスト 益子直美

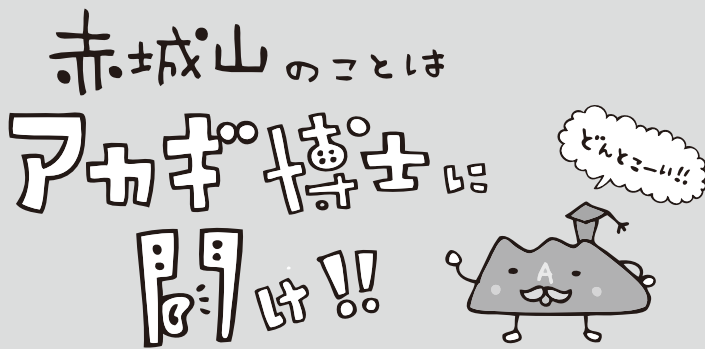
Naomi MASUKO

東京都葛飾区出身。175cm。中学からバレーボールを始め、高校3年(共栄学園)で日本代表メンバー入り。ワールドカップ、世界選手権などで活躍。引退後は、スポーツコメンテーターとしてテレビ、ラジオ等で活躍中。バレーボールの解説やオリンピックのキャスターほか、バラエティ番組まで、幅広い番組に出演している。2006年自転車プロロード選手の山本雅道氏との結婚を機会にロードバイクにチャレンジ中。著書に「バランスボールビューティ」(マガジンハウス)「マスコナオミ丸裸」(KSS出版)など。  
<http://www.makozo.com>

## ゲスト 長沼隆行

Takayuki NAGANUMA

1985年茨城県生まれ。168cm、53kg。中学2年生の時、父の影響でサイクルロードレースを始める。めきめきと頭角を現し、プリヂストーンエスポワール→プリヂストーンアンカー→宇都宮ブリッツェンと国内トップレベルのプロチームで「上りのスペシャリスト」として活躍する。2012年はヒルクライム専門のプロチーム「VAX RACING」に移籍し、全国のヒルクライムイベントに参加中。昨年までよりも、さらに皆様との距離をグッと近づけ、いろいろなスタンスで自転車界を盛り上げられるよう活動している。  
[主な戦歴]  
●2011 ツール・ド・美ヶ原 1位 大会新記録 ●2011 Mt.富士ヒルクライム 1位  
●2011 ツール・ド・草津 1位 大会新記録 ●2010 ツールドおきなわ 山岳賞  
●2010 Jツアー伊吹山大会 2位



## 「赤城山」という名前の山はない?

え? ホント? 赤城山最大のミステリー...とまでは言わないけれど、「赤城山」という名前の独立峰はないということで、設問のタイトルはある意味、正解。赤城山は、黒檜山(1828m)を最高峰として、駒ヶ岳・地藏岳・長七郎山・鈴ヶ岳・鍋割山などなど、10数個のピークをもつ山々の総称なんだ。見る場所によって山の姿かたちが大きく異なるのも、このため。連峰の総称というのは特に珍しくなく、八甲田山や天城山なども同じなんだ。



## なんで赤城山は有名なん?

そうだね。群馬県は知らなくても赤城山は知っているというくらい全国的に有名。なぜ、それほど高くもない赤城山(標高1828m)が広く知られているのだろうか。いろいろ理由は考えられるが、そのひとつに、明治から昭和にかけて講談やお芝居(新国劇)で「国定忠治」のお話で人気を博したことが大きい。国定忠治といえば赤城山。特に「赤城の山も今宵かぎり...」の名ゼリフで赤城山の名前が知れ渡ったといわれる。国定忠治は実在の人物。赤城山の八甲田湖畔にも忠治の姿をレリーフにした忠治像があるぞ。



## なんで裾野が広いん?

ホント! 広いというか長いというか、これだけ裾野があれば、もっと山が高くても良さそうなのなのに...。じつは、大昔のかたちは富士山のような円錐形で、いまより700mほど高かったらしい。それが長い間の火山活動によって山のかたちが変わり、火砕流がふもとに流れ、あるいは山がくずれて岩や泥がふもとに積もって、現在のような広く長い裾野ができあがったんだと。おかげで雄大な景色が生まれたということもいえる。ある学者は「野球の審判がセーフをしているかたち」と言ったそう。